

なかみん 様

愛用ミシン： JN508DX

おばあちゃんからのミシン


ミシンという機械としっかり向き合ったのは私にとって最近のこと。きっかけは妊娠をし、里帰り出産のために実家に帰った時のことでした。妊娠とともに仕事を辞めたため、時間を持て余していた私は、赤ちゃんのスタイなどの小物を手縫いで作り始めて裁縫の楽しさを感じ始めました。作りたいものが増えてきて、さすがに手縫いだけでは難しいものも出てきたため、母のミシンを借りて実家で作ることにしました。

母のジャノメミシンは 30 年前、母が結婚したときに祖母が買ってくれたものでした。母曰く、結婚時に贅沢を言っているいいものを買ってもらったのになかなか忙しくて活用出来ずに祖母に悪いと思っていたとのこと。ミシン初心者の私には難しいことはわかりませんが、そのミシンの使い心地が 30 年前のものに関わらずとても良く、良いものなの伝わってきました。

ミシンを触るのは中学生の時授業で習って以来のことだったため、母に手取り足取り教えてもらい、時には歳の離れた妹が中学校で習いたてのミシン技術を教えてくれました。母にミシンを覚えてもらいつつ祖母との思い出話を聞くこともでき、母は「あまりミシンを活用できてなかったから、あなたが使ってくれてきつとおばあちゃん喜んでよ」と話していました。

完成したまだ生まれぬ我が子の肌着は、母と妹たちとの思い出と、今は亡き祖母の思い出が詰まったものとなり思い出深いものとなりました。祖母にはひ孫と会う機会を作ってあげられなかったけれど、祖母からのミシンを通してひ孫のお洋服に繋がれたことが祖母にとっても嬉しいことな

JANOME
100
YEARS
since 1921



のではないかと勝手に想像しています。

おばあちゃん、ひ孫のためにも使えるようないいミシンをありがとう。今では元気に生まれた我が子が着る、思い出のミシンで作ったお洋服を見るたびに幸せな気持ちになります。子どもが大きくなったら、この話をしてあげる日が今の楽しみです。